

## 会 議 録

会議の名称	第5次三田市農業基本計画策定懇話会 第2回分科会C
開催の日時	令和3年10月21日(木) 17時~18時30分
開催の場所	三田市役所 本庁舎3階 303会議室A
出席した委員の氏名	藤原座長、中西委員、竹谷委員、岡本委員、見野委員、東良委員、荻野委員
欠席した委員の氏名	なし
出席した庶務職員の職及び氏名	井上産業戦略室長、大井農業創造課長、徳岡農業創造課副課長、池田農業創造課係長、藤田農業創造課係長、生田農業創造課事務職員、妻鹿農業創造課事務職員、甲斐農業創造課事務職員
その他出席者	なし
傍聴者の人数	1名
議 題	1 第4次三田市農業基本計画の取り組みの振り返り 2 意見交換
会議の概要(結論)	・第4次三田市農業基本計画の取組みなどについて事務局から説明し、意見交換を行った。
公開・非公開の区分	公開
使用した資料	次第 資料1 懇話会・分科会の進め方について 資料2 第4次三田市農業基本計画の成果指標 資料3 第4次三田市農業基本計画の取り組みについて 第1回分科会C会議録
連絡先	地域創生部 産業戦略室 農業創造課 電話(079)559-5091 内線(2483)

### 1 開会

【大井農業創造課長の司会により開会した。】

【事務局より会議の成立を確認した。】

### 2 第4次農業基本計画の取り組みの振り返り

【資料1~3に基づき、事務局から一括して説明した。】

### 3 意見交換

座 長： 資料2の達成率について、第4次計画のスタートは平成29年度であり、令和2年度時点で目標を概ね達成しているという理解でよいか。

事務局： そのとおり。

#### (1) 三田ブランドの強化について

委員： コロナ禍で、学校が農業体験学習を実施する機会が増えたことを、三田産農産物のPRやブランド化に繋げることができるのではないかと。

委員： 黒大豆枝豆の需要は多いが、近隣他市でも生産している。三田産をどうやって選んでもらうかが課題となっている。

委員： 三田牛は神戸牛に質で劣っておらず、高い評価を受けている。しかし、頭数が少なく、販路などで苦労している部分がある。

委員： 三田市が良質な和牛の産地であるということは、ある程度認知されていると思う。

座長： 体験学習は、都市部の方に農業体験の需要が増えていると話題になっている。また、三田牛ブランドは、ある程度認知されていると思われるが、三田産全体としてはブランディングが弱いところだと思う。

#### (2) 農産物の高付加価値化について

委員： 畜産農家と稲作農家が連携して、稲わらを飼料として与えていると聞いたことがある。

委員： 三田市でも稲わらを飼料として与えている畜産農家はある。

座長： 農業と畜産が連携して実施する循環型農業は、学術的にも評価が高い。

委員： 農業体験の中で循環型農業を体験してもらうのもよいと思う。

委員： 有機農業まではいかなくとも、循環型農業などを意識しなければ、消費者から選んでもらえなくなっている。

座長： 三田市は里山が豊かなので、その特色を生かして、より高い付加価値を付けることができると思う。

農業に関心を持ってもらうきっかけづくりとして、循環型農業を体験学習としてパッケージングしてPRするのも良いかもしれない。

#### (3) 新たな需要の創出、三田産農畜産物の魅力発信について

委員： 昨年、市外でいちごの販売会を2回行った。外部に向けてPRしていくことで、三田産農産物の魅力が広がるきっかけになると思う。

委員： コロナ禍で実施できなかったが、東京五輪で三田産野菜を納入してPRすることを予定していた。

委員： SNSを活用している農業者がいるが、消費者からの反応が良いと感じる。ポジティブな情報を発信することで、付加価値の向上にも繋がっている。

座長： 農産物の魅力発信は、市外の人にどのように三田市を知ってもらうかが重要になると思う。

#### (4) 地産地消推進活動の推進について

委員： 消費者に三田産ロゴマークを意識してもらえれば、地元産ということで安心感を持ってもらえると思うが、どうやって知ってもらうかが課題である。

座長： 市民の購入機会を増やす取組みが重要であり、地産地消の取組みとして実施している「さんだ農業まつり」などが三田産をPRする機会になっている。

資料3のさんだ地産地消認定応援店が増加していることは、市民の購買意欲に働きかけるなど、一定の効果が出ていると思う。

#### (5) 市民等による農業の支援について

座長：貸農園を借りたとしても、栽培方法を誰に教えてもらえばいいのかが分からないのではないかな。

委員：農機具がなく、教えてくれる人がいないといった貸農園などもある。

委員：市が管理する市民農園はどこにあるのか。また、市内にはどれくらい貸農園があるのか。

事務局：市が管理する市民農園は香下にあるが、現在は利用率が100%となっている。その他にも、JAなどが運営している貸農園が市内に11か所ある。

委員：貸農園の需要は高いと思うが、付近に駐車場が無いという問題がある。

座長：指導者を付けることや、駐車場を整備するなど、戦略的に取り組むことで貸農園がより一層拡大するかもしれない。

#### 4 まとめ

座長：ブランド化が一番大きなミッションであると考えている。三田牛の特色を前面に出してPRするなど、マーケティング方法を工夫して付加価値を上げるための取組みが必要である。

#### 5 閉会

- ・振り返りメモについては、意見できなかったことや気がついたことを率直に記入いただき事務局に提出いただきたい。
- ・本日の協議をもとに、事務局と座長とで調整のうえ、分科会としての意見をまとめる。
- ・第2回懇話会と第3回分科会の開催は11月を予定しているが、日程は後日調整する。

(以上)